

種類  
船津類

諸焉雄譜此云因改號其津曰盾津今云蓼津訛也 六月丁巳天皇獨與皇子手研耳命帥軍而進至熊野荒坂津亦名丹敷浦因誅丹敷戶畔者

〔令集解三十〕朱云津謂廣謂船津者明未

〔倭名類聚抄七〕越前國今立郡船津布奈

〔日本靈異記中〕行基大德携子女人視過去怨令投淵示異表緣第卅

行基大德令掘開於難波之江而造船津

〔長門本平家物語五〕少將成藤原も判官入道も康賴平法ほ風のさたにも及ばず今一日もといそぎ

て硫黃津といふ所にうつりにけり僧都寛あまりのかなしさに船津まできたりて二人の人

人にすこしもめをはなたす少將の袖に取つきても涙をながし判官入道の袂をひかへてもさ

けびけり

〔名所方角抄壹岐〕風本 呼子の松原より海上十里北なり北は海なり船津なり是より對馬へ渡

るなり

〔萬葉集十〕秋雜歌七夕

秋風爾河浪起アキカゼニカハナミタチスシハラクハヤノフナツニフネトアマモヨ暫八十舟津三舟停

〔肥前風土記神埼郡〕船帆鄉在郡西

同天皇行景 巡狩之時諸氏人等舉落葉船舉帆參集於三根川津供奉天皇因曰船帆鄉又御船沈石

四顆存其津邊

〔倭名類聚抄六〕駿河國安部郡川津加波

伊豆國賀茂郡川津

〔倭名類聚抄九〕讚岐國鵜足郡川津加波

川津